

敦煌の大守曹忠患を殺す。延光三年(百年二十)班勇、匈奴の車師に田する者を撃つ。晋代(三百年)此地に高昌郡を置けり。後魏の時(五百年)闕爽自ら其の大守と爲りて魏に入貢す。宋の和平元年(四百年六)蠕々之を併吞し、闕伯周を高昌王に封ず。其の王號を稱すること是に始まる。闕伯周死し、子、義成立ち、次で兄、首歸に譲り、首歸立つや、高車主、阿伏至羅に殺され、阿伏至羅、張孟明を以て王に封せしが、國人喜ばずして張を弑し、馬儒を立て、王とせり。然るに馬儒、高昌の地を去り、内地に徙らんと欲し、爲めに國人の恨を買ひ、又殺さる。是に於て其の長史、禮麴嘉を王位に推し、始めて蠕々に臣屬せしも、後、遂に高車に臣屬したり。

隋の太祖開皇四年(五百年八)突厥其の四城を破り、王伯雅立つ。煬帝の大業四年(六百年八)來貢したりしが、既にして伯雅死し、子、文泰立つ。唐の太宗貞觀四年(六百年三)入朝後、文泰、西突厥と通じ、西域諸國の貢道を絶ち、伊吾(今哈密)焉耆(今沙爾喀)等に仇せるを以て、太宗、候君集を交河道の大總管と爲し、兵を發して之を討たしむ。君集の兵磧口に入るや、文泰驚きて頓死し、子、智威嗣けり、君集進んで其都城を抜き、智威降りて唐に入朝せり。是より其地を縣と爲し、高昌を西州と改め、更に安西都護府を置き